

平成26年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 国本 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	127人	国語B	127人
② 数学A	127人	数学B	127人

5 留意事項

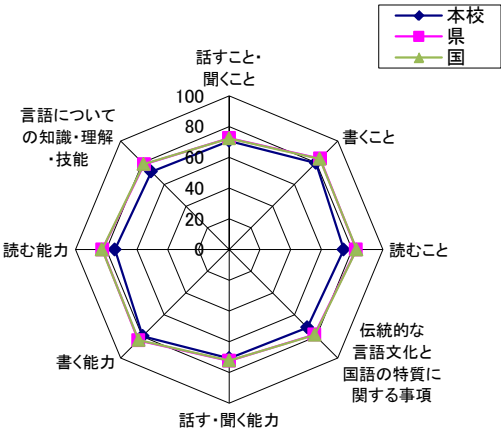
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

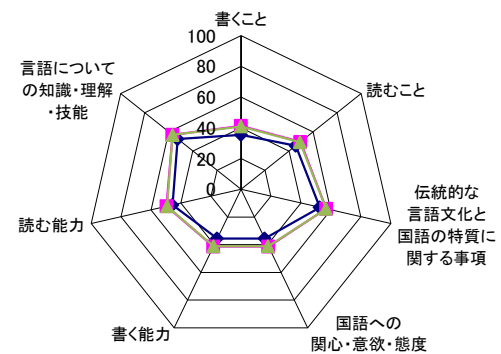
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	話すこと・聞くこと	70.8	72.5	72.3
	書くこと	79.7	83.7	83.4
	読むこと	74.5	82.6	82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.8	78.4	78.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	70.8	72.5	72.3
	書く能力	79.7	83.7	83.4
	読む能力	74.5	82.6	82.9
	言語についての知識・理解・技能	71.8	78.4	78.7



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	35.5	41.3	41.0
	読むこと	45.7	49.6	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	52.6	57.0	56.8
観点	国語への関心・意欲・態度	35.5	41.3	41.0
	話す・聞く能力			
	書く能力	35.5	41.3	41.0
	読む能力	45.7	49.6	49.2
	言語についての知識・理解・技能	52.6	57.0	56.8



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○ 国語に関する質問で、「国語の勉強は好きですか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話しを工夫していますか」「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」のすべてに対して、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が、栃木県や全国と比べてかなりの高ポイントである。
● 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対する回答で「1時間以上、2時間以上」の割合が、栃木県や全国と比べて約10%分低い。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

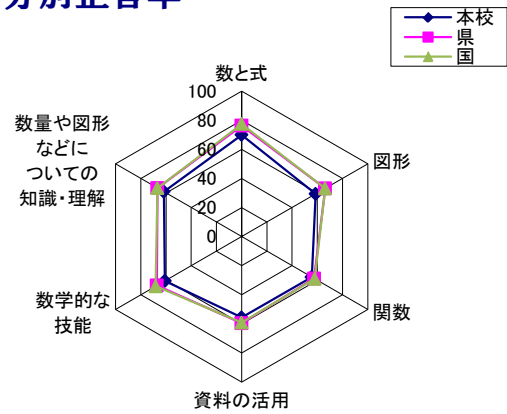
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し合いの方向をとらえた司会の役割を果たすことや、必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出すことの正答率が高い。 ●目的に沿って話し合い、互いの発言を検討することの正答率が低い。	・聞き取ることは得意だが、話すこと、特に人前で言いたいことを発表することが苦手な生徒が多い。国語の授業を中心に、学級活動などでも、発表や発言のしかたを訓練するとともに、聞いている人の興味や関心を高め、わかりやすい話し方を工夫する活動を取り入れていきたい。
書くこと	○領域の平均正答率は多様な方法で材料を集めながら考えをまとめたり、材料を分類したりすることの正答率が比較的高い。 ●資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことや、根拠を明確にして自分の考えを書くことの正答率が低い。	・短時間で自分の考えをまとめ、文章化できるように、授業の中で書く練習をできるだけ多く取り入れるようにする。また、新聞の投稿文などを用い、優れた文章の構成などを学ばせ、自分の作文に役立てるよう指導する。
読むこと	○登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することや、文章全体と部分の関係を考え、内容を理解することの正答率が高い。 ●複数の資料を比較して読み、要旨を捉えることや、本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取ることの正答率が低い。	・文章の内容を理解するために、一部だけを読んで、筆者の意図をつかむのではなく、文章全体の流れを理解し、筆者は何を主張したいのかをつかめるよう指導していきたい。 ・全体的に本好きな生徒が多く、朝の読書でもほとんどの生徒が熱心に本を読んでいる。より質の高い文学作品に触れさせ、登場人物の心情の理解や文脈にあった語句の意味の理解につなげていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○文脈に即して漢字を正しく読むことや、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことの正答率が比較的高い。 ●文脈に即して漢字を正しく書くことにつまずきを感じている生徒が非常に多い。	・1学年下の配当漢字の読み書きの復習を含め、学年配当の漢字を継続的に学習するプリントを作成し、確認テストを行うことで定着を図りたい。 ・文法に苦手意識を持っている生徒が多いので、授業に興味を持って意欲的に取り組めるような工夫をするとともに、練習問題で反復練習させることで定着を図りたい。

宇都宮市立国本中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

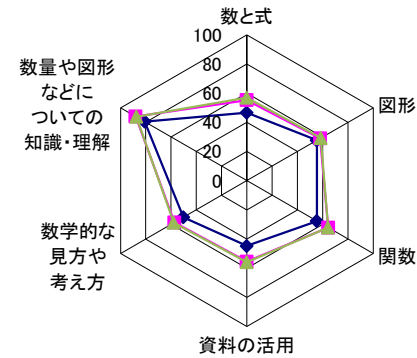
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	数と式	69.9	76.3	77.4
	図形	58.7	66.4	66.4
	関数	55.6	57.5	58.0
	資料の活用	55.6	59.5	59.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え			
	数学的な技能	60.9	67.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	61.8	66.7	66.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	数と式	46.7	55.3	56.9
	図形	55.4	58.1	58.6
	関数	55.5	64.5	64.4
	資料の活用	44.8	55.5	55.9
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え	50.2	57.3	57.9
	数学的な技能			
	数量や図形などについての知識・理解	80.8	88.0	87.5



★数学に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。」「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」と回答している生徒の割合は、全国平均より高く、工夫しようとする意欲が見られる。

○「数学の問題の解き方がわからない時は、諦めずにいろいろな方法を考えている。」「数学の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている。」と肯定的に回答している生徒の割合は、全国平均より特に高い。

●「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思う」と回答している生徒の割合は、全国平均と比べて低い。実生活における事象との関連をさらに図り、有用性を感じられる授業を展開していく必要がある。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○A平均正答率は自校の他の領域と比較して高い。数量の大小関係を不等式で表す設問の正答率が高い。 ●A一元一次方程式や連立方程式が全国平均よりもかなり低い。計算規則の定着に課題がある。 ●B式の性質に関わる説明をする設問に対して、論証力に課題がある。	・授業の中で、方程式に関する移項や文字の消去の仕方など、式変形に関わる基本的な事項を、既習事項として再度確認し、反復練習を行う。 ・説明をする力の向上のために、論理の流れを理解するためのパターン練習を取り入れ、書くことに慣れるようにする。
図形	●A図形の合同の証明の仕組みの理解に課題が見られる。 ○B図形から得た情報をもとに空間における位置関係をとらえたり、新たな情報を読み取ったりすることができている。 ●B与えられた条件をもとに証明を活用しながら角度を求める問題に対して、正答率がかなり低い。	・今後、円周角や相似の学習の際に再度証明の流れの確認をする。基本的な図形の性質が身に付くようなパターンの反復練習が必要である。 ・角の大きさや辺の長さを求める問題など、図形の性質に関わる計算問題を確実に解かせ、理解を深めていきたい。
関数	○A比例、反比例の性質やグラフの形状について、関数領域の他の問題よりは理解されている。 ●Aグラフ、表、式との関連については不確かな部分がある。 ○Bグラフを読み取る問題に対して正答率が高い傾向にある。 ●B説明をする際、適切な用語を使用できていないと思われる。	・形式的な計算はできるが、関数の考え方そのものがイメージできていない。関係式のもつ意味、グラフの意味や見方、表とグラフの関係など根本的な部分の理解を深めさせていきたい。
資料の活用	○A確率の意味やヒストグラムにおける中央値の意味理解に一定の成果が見られる。 ●A相対度数を求める正答率が、資料の活用領域の他の問題に比べ、かなり低い。 ●Bスティックゲームにおける1点と2点のとりやすさについての正しい記述を選び、その理由を説明する設問の正答率は、県や全国の正答率より約10ポイント低い。	・確率の問題では、他の領域と同様に文章を読み取って場面を把握する力に課題があると考えられる。身近な題材を扱うことができる単元なので、興味・関心から高めていきたい。

宇都宮市立国本中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

○ 国語に関する質問で、「国語の勉強は好きですか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話しの組立てを工夫していますか」「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」のすべてに対して、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が、栃木県や全国と比べてかなりの高ポイントである。

○ 数学に関する質問で、「数学の授業の内容がよく分かりますか」「数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか」「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」のすべてに対して、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が、栃木県や全国と比べて高ポイントである。

○ 「家で、学校の授業の復習をしていますか」に対する肯定的回答が、栃木県より11.2ポイント、全国より22.2ポイント高い。「家で、学校の授業の予習をしていますか」に対する肯定的回答が、栃木県より9.9ポイント、全国より12.7ポイント高い。「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」に対する肯定的回答が、栃木県より8.1ポイント、全国より14.0ポイント高い。

○ 「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」に対する回答で、「週に4回以上行く」が3.3ポイント、「週に1～3回程度行く」が8～9ポイント、「月に1～3回程度行く」が10～11ポイント高い。

○ 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」に対する肯定的回答が、栃木県より8.7ポイント、全国より15.5ポイント高い。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」に対する肯定的回答が、栃木県より12.3ポイント、全国より18ポイント高い。

○ 「1、2年生の時に受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか」に対する肯定的回答が、栃木県より14.4ポイント、全国より26.1ポイント高い。「1、2年生のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」に対する回答が、栃木県より11.7ポイント、全国より14.7ポイント高い。

● 「学校の規則を守っていますか」に対する肯定的回答が、全国と比べて3.1ポイント、栃木県と比べて4.1ポイント低い。

● 「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的回答が、全国と比べて7.4ポイント、栃木県と比べて11.2ポイント低い。

● 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対する回答で「1時間以上、2時間より少ない」の割合が、栃木県や全国と比べて約10ポイント低い。

● 「授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか」に対する回答で「学習塾の先生(家庭教師も含む)に尋ねる」の割合が、栃木県や全国と比べて約10ポイント高く、「その場で先生に尋ねる」と「授業が終わってから先生に尋ねに行く」の割合合計が、栃木県と比べて4.9ポイント、全国と比べて8.4ポイント低い。